

## 柔道整復科

## 柔道 4

対象	2年次	開講期	後期	区分	必	種別	実技	時間数	30	単位	1
担当教員	宮本功三、有山敦士、小西裕司、青木伊之、後藤晃弘、杉本知	実務経験	有	職種	柔道整復師(接骨院にて勤務経験あり)						

## 授業概要

投げ技、抑え技について形を中心に学びます。

## 到達目標

本来、柔道整復師としての柔道教育は、競技目的の柔道を教育するものではなく、昇段を目指し柔道整復師の技術のバックボーンである手技や人格の形成、心身の鍛錬を目的とし、人としての振る舞いの基本（人に対する接し方や対話の仕方）、礼儀作法の習得が最終目標である。基礎体力を養い、また受身を学ぶことで怪我の防止を理解する。

## 授業方法

柔道は、精神と身体の力を合理的に使用することが必要であり、単に柔道の技能だけを学ぶだけでなく、医療従事者への社会生活すべてのことを行う原理として応用できるものと考えられることを理解する。柔道を行うことによって、お互いに協力し、助け合い、譲り合い、それによって自他共に向上することが社会の発展に役立つことを理解し育成する。

## 成績評価方法

試験と課題を総合的に評価する。

## 履修上の注意

柔道は、相手を投げ、抑え込み、首を絞め、関節を極める技を用いて攻防を行うので、常に危険と隣り合わせである。柔道の攻防の際に生じる危険な状態をよく理解し、未然にそれを回避する能力をつけることを意識する。危険と隣り合わせである授業なだけに、意味のない授業中の私語や授業態度は厳しく対応する。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は単位を認めない。

## 教科書教材

教科書（イラスト柔道-品川区柔道会日本柔道整復専門学校 監修-）に準拠する。

回数	授業計画
第1回	受身の復習、投の技（手技）の復習
第2回	投の形（腰技）の演舞・説明
第3回	投の形（腰技）①

第4回	投の形（腰技）②
第5回	投の形（腰技）③
第6回	投の形（腰技）④
第7回	投の形（腰技）⑤
第8回	投の形の腰技（浮腰・払腰）ができる
第9回	投の形（腰技）⑥
第10回	投の形（腰技）⑦
第11回	投の形（腰技）⑧
第12回	投の形（腰技）⑨
第13回	投の形（腰技）⑩
第14回	投の形の手技・腰技が一連の流れでできる
第15回	半期の総括